

令和7年度 小平第二みどり作業所 事業報告書

1 総括

令和7年度も6年度に引続き、数年来の課題であった職員の定着率向上、チームワーク強化を中心に取り組んだ。事業所の主なテーマである利用者支援及び就労支援事業の充実には職員の支援体制強化は必須条件であるが、職員の定着率の低さから人材育成が進まず、連携協働が不十分であったことが最大の課題であった。6年度からこの取り組みに徐々に効果が出始め、7年度になり更にチームワーク強化が進んだと感じている。また、6年度にパン製造において異物混入事故が発生したことから、7年度はリスク管理の強化に取り組み、食品製造事業において事故件数0を達成することができた。

2 事業概要

- | | | | |
|------------|------------------|----|-----------|
| 1) 施設名 | 小平第二みどり作業所 | | |
| 2) 事業種別 | 就労継続支援B型 | | |
| 3) 所在地 | 東京都小平市天神町3-7-16 | | |
| 4) 経営主体 | 社会福祉法人未来 | | |
| 5) 利用定員 | 40名 | | |
| 6) 利用現員 | 49名（令和8年3月31日現在） | | |
| 7) 法人認可年月日 | 平成14年12月11日 | | |
| 8) 事業開始年月日 | 平成20年4月1日 | | |
| 9) 職員 | 14名（令和8年3月31日現在） | | |
| | 管理者 | 1名 | 常勤1 |
| | サービス管理責任者 | 1名 | 常勤1 |
| | 職業指導員 | 3名 | （常勤換算3.0） |
| | 生活支援員 | 8名 | （常勤換算5.4） |
| | 目標工賃達成指導員 | 1名 | 常勤1 |

3 基本理念

- 1) 一人ひとりの自己実現
- 2) 互いの尊厳の尊重と信頼関係の構築
- 3) 安心と希望の持てる生活

4 基本方針

- 1) 就労支援
 - ① 利用者の個々の特性にあった就労支援事業の活性化
 - ② 生き生きと働ける職場
 - ③ 職業指導の充実
 - ④ 賃金の保障
 - ⑤ 就労移行支援の実施
- 2) 生活支援
 - ① 日中活動の支援
 - ② 豊かな生活の支援
 - ③ 利用者一人ひとりの主体的な生活の支援
 - ④ 個別支援計画に基づいた計画的な支援
 - ⑤ 利用者への相談支援
 - ⑥ 安心できる将来への支援

5 実施事業（活動内容）

- 1) 就労支援事業
 - ① クッキー製造・販売

- ② パン製造・販売
- ③ 公園清掃
- ④ マンション清掃
- ⑤ 受注作業（ボーロ入れ作業等）

2) 生活支援事業

- ① レクリエーション（月 1 回実施）
- ② 音楽教室（月 1 回実施）
- ③ 旅行（年 1 回実施）
- ④ 生活支援プログラム（週 3 日実施）
- ⑤ 夕方生活支援事業（週 2 日実施）

3) 行事

- 4 月 永年勤続表彰式
- 5 月 小平市障がい者運動会
- 6 月 ジグソーパズル
- 7 月 多摩六都科学館見学
- 8 月 メタウォーターサステイナブルパークこがねい見学
- 9 月 川遊び
- 10 月 一泊旅行（茨城県大洗方面）
- 11 月 映画鑑賞
- 12 月 忘年会（ボウリング）
- 1 月 初詣
- 2 月 キューピーマヨネーズ工場見学
- 3 月 防災訓練

6 日 課

開所・送迎・清掃	8 : 3 0 ~ 9 : 1 5
朝 礼	9 : 1 5 ~ 9 : 3 0
作 業	9 : 3 0 ~ 1 0 : 3 0
休 憩	1 0 : 3 0 ~ 1 0 : 4 5
作 業	1 0 : 4 5 ~ 1 1 : 4 5
片付け	1 1 : 4 5 ~ 1 2 : 0 0
昼休み	1 2 : 0 0 ~ 1 3 : 0 0
昼 礼	1 3 : 0 0 ~ 1 3 : 1 5
作 業	1 3 : 1 5 ~ 1 4 : 1 5
休 憩	1 4 : 1 5 ~ 1 4 : 3 0
作 業	1 4 : 3 0 ~ 1 5 : 3 0
終 礼	1 5 : 3 0 ~ 1 5 : 5 0
送 迎	1 5 : 5 0 ~ 1 6 : 3 0
清掃・記録等	1 6 : 3 0 ~ 1 7 : 0 0
職員打ち合わせ	1 7 : 0 0 ~ 1 7 : 3 0

7 重点課題・目標に対する成果と課題

1) PDCAサイクルの実施による利用者支援の充実。

- (1) 長期目標、短期目標、支援上の重点との関連付けを整理し個別支援計画作成スキルの向上を図る（計画作成、評価において、職員間の情報及び意見交換を活発に行い、計画に活かす）。
- (2) 支援方針、支援目標や目的を全職員で共有する。
- (3) 個別支援計画に基づいた統一した支援を行い、支援経過を共有するとともに丁寧に記録し、それに基づいた評価、見直しを実施する。

【成果と課題】

PDCAサイクルの実施による利用者支援の充実については、令和 2 年度から重点課題と

して取り組んできた。令和2年度当初は支援目標や支援内容に具体性が乏しく実際の支援に活用しにくいものであったため、計画に基づいた支援やその記録、評価、などが不十分であった。しかし、取り組みの継続により、計画、支援内容や記録が徐々に改善し、計画の具体性や利用者の心情理解や行動の背景への考察がみられるようになってきている。また、6か月毎の見直しにおいても、職員間の意見交換が活発に行われ、PDCAサイクルによる支援が機能しつつあると感じている。ただし、計画に利用者の高齢化への対応などの長期的な視点が不足していることが課題と考えている。

2) 就労支援事業の充実

(1) 作業指導の充実や自分に合った仕事の提供により、やりがいのある仕事を通じて利用者一人ひとりが職業人として成長する。

【成果と課題】

1) (1) に記載の通り、PDCAサイクルの安定化が進んできたことにより、個別支援計画の支援方針に基づき、利用者一人ひとりに合った作業種や各工程の提供ができるようになってきていると感じる。数年前は、一つの作業や工程に拘りを持っていた利用者も多くみられたが、年々他の作業や各工程に関わる機会を増やし、全体的に多くの利用者の作業の幅が広がっている。

(2) 職員の担当を重層的にする（各職員が複数の業務に関わり技能等を習得する）ことで、各作業が中長期的に安定して行える体制を作る。

- ・新規採用職員を始め、全職員が全作業を経験する。
- ・パン及びクッキー作業担当職員の定期的な配置の交換。

【成果と課題】

令和4年度まで各職員が自分の担当業務以外への関心が薄く、職員のチームワークも非常に悪い状態が続いた。このことが職員の業務に対するモチベーションの低下を招き、職員定着率の低さや利用者支援の質の低下につながった。5年度以降、全職員が幅広い業務を担当することで、事業所全体を視野に入れた業務を行うという風土づくりに取り組んできた。職員の連携協働や利用者へのチーム支援は徐々に改善が見られ、作業の実施体制も安定化してきた。7年度もこの取り組みを継続し、連携協働や作業体制の安定化が更に進んだと感じている。

(3) パン、クッキー製造など一定の技能が必要な作業については、定期的（担当全職員月2回）な練習により職員の技能向上を図る。

【成果と課題】

全職員が月2回以上の練習を行い、パン、クッキー共に担当職員の技術レベルは向上した。更に前述のように、全職員が幅広い業務に携わることで、相互補完体制が強化された。

(4) (1) ～ (3) の実践により工賃向上を行う。

	令和6年度実績	令和7年度目標
月額平均工賃	18,359円	18,000円

【成果と課題】

昨年度比で各作業収益はクッキー作業が93万円増、パン作業が26万円増、清掃作業が11万円増、緑化推進事業を含めたその他の作業が22万増となり、作業収益全体では約152万円増額となった。月額平均工賃も18,398円で、昨年度比で39円の増額となり、目標であった1万8千円を達成できた（8年度の報酬ランクは7年度と同様のランクを維持）。

	令和6年度 実績	令和7年度 目標	令和7年度 実績
月額平均工賃	18,359円	18,000円	18,398円

(5) 各作業における戦略と目標

ア、クッキー製造作業

- ・職員配置 1 日平均 3 名
- ・注文販売先（毎月 3 か所、合計 900 個、9 万円分）の現状維持及びイベント販売への対応強化（製造能力向上）

・目標	令和 6 年度実績	令和 7 年度目標
年間製造個数	27,991 個	30,500 個
年間売上	5,254,733 円	5,200,000 円

※事業計画作成時の令和 7 年 1 月時点

令和 6 年度実績を製造個数 28,600 個、売上 5,000,000 円と見込んでいた

【成果と課題】

- ・令和 8 年 1 月に常勤職員 1 名を採用し、担当職員の目標人数は達成したが、採用時期が遅くなったこともあり、年間通して職員配置は、1 日平均 2.5 名となり目標の 3 名を配置することができなかった（昨年度 1 日平均 2.7 名）。職員配置数は昨年度比で減少となったが、前述のように職員の技術向上や業務の重層化により作業実施体制は昨年度に比べ安定した。
- ・注文販売先は新たに 3 か所増え、合計 6 か所となり、月平均 1,200 個、12 万円の売上で目標を上回ったほか、製造能力の向上によりイベント等での販売数が増加し収益増につながった。下記の通り年間目標に対して達成率は 100% を上回った。また、昨年度比も上回ることができた。

《製造個数および年間売上》

	令和 7 年度目標	年間実績	目標達成率
年間製造個数	30,500 個	34,112 個	111.8%
売上金額	5,200,000 円	6,178,933 円	118.8%

《6 年度同時期比》

	令和 7 年実績	令和 6 年度実績	前年度との差額
年間製造個数	34,112 個	27,991 個	6,121 個
売上金額	6,178,933 円	5,254,733 円	924,200 円

イ、パン製造作業

- ・職員配置 1 日平均 3 名
- ・新商品の開発（24 種類）
- ・注文販売先の新規開拓（市内学童を中心に）
- ・商品ロスの削減（店舗の売れ残り商品を出張販売にて販売する）

・目標	令和 6 年度実績	令和 7 年度目標
年間製造個数	28,147 個	29,700 個
年間売上	4,240,580 円	4,300,000 円

【成果と課題】

- ・令和 7 年 9 月に常勤職員 1 名を採用し、担当職員の目標人数は達成したが、入職後半年かけて全作業に携わる機会を設けたことで年間通して職員配置は、1 日平均 2.4 名となり目標の 3 名を配置することができなかった。職員配置数は昨年度比で同数であったが、前述のように職員の技術向上や業務の重層化により作業実施体制は昨年度に比べ安定した。
- ・年間通して 27 品の新商品の試作を行ったうち 15 品を商品化し、売れ行きは概ね好調であった。残りの 12 品は、製造の難しさやコスト面などを理由に商品化しなかった。
- ・猛暑による来客減から製造数を調整したことや、必要に応じて保育園での出張販売を実施したことにより、製造した全ての商品を廃棄することなく完売することができた。

- ・販売先の新規開拓として、小平市内の学童6か所と保育園1か所を増やすことができた。販売先が増えたことで安定した注文数と売上に繋げることができた。
- ・下記の通り、製造数および売上ともに年間目標に対して達成率は100%を上回ったほか、昨年度比も上回ることができた。

《製造個数および年間売上》

	令和7年度目標	年間実績	目標達成率
年間製造個数	29,700個	30,784個	103.6%
年間売上	4,300,000円	4,496,089円	104.5%

《6年度同時期比》

	令和7年度実績	令和6年度実績	前年度との差額
年間製造個数	30,784個	28,147個	2,637個
年間売上	4,496,089円	4,240,580円	255,509円

(6) その他の作業を含めた収入目標

	令和7年度目標 (円)	令和6年度実績	差額
クッキー製造事業	520万	525万	△5万円
パン製造事業収入	430万	424万	6万円
清掃作業収入	190万	200万	△10万円
受注作業収入	5万	10万	△5万円
その他作業等	84万	67万	17万円
合 計	1,229万	1,226万	3万円

【成果と課題】

	令和7年度目標 (円)	令和7年度実績	目標達成率
クッキー製造事業収入	520万	618万	118.8%
パン製造事業収入	430万	450万	104.6%
清掃作業収入	190万	211万	111.0%
受注作業収入	5万	9万	180.0%
その他作業等	84万	90万	107.1%
合 計	1,229万	1,378万	112.1%

	令和7年度実績	令和6年度実績	前年度との差額
クッキー製造事業収入	618万	525万	93万円
パン製造事業収入	450万	424万	26万円
清掃作業収入	211万	200万	11万円
受注作業収入	9万	10万	△1万円
その他作業等	90万	67万	23万円
合 計	1,378万	1,226万	152万円

3) 人材育成

(1) 常勤換算12.5名（管理者、サビ管含む）の職員体制の安定確保

(2) 職員の定着率の向上

- ・目的や成果等を明確に伝え、職員一人ひとりのやりがいを引き出す。
- ・時間を有効活用し業務分担を軽減する（担当者が事前準備しミーティング時間を短縮する、作業の進捗状況を共有し時間外勤務を軽減する など）
- ・法人内の担当施設長（2名）が週1回ミーティングに参加し、職員との意思疎通を図る。

【成果と課題】

(1) 年度当初の職員数は13名、常勤換算10.4名から常勤職員1名増（2名採用、1名異

動により減)で年度末は14名、常勤換算11.4名となった。今年度中に復帰予定であった常勤職員1名の育児休業延長等により、目標の12.5名に達しなかった。ただし配置基準は7.8名のため、基準以上の配置は行った。

- (2) ワークセンター夢の樹とみらいホームの施設長の協力も得て、職員間の目的意識の共有や意思疎通の円滑化が進み、職場の雰囲気は良くなってきていると感じる。施設長を除き今年度末現在の職員数14名の内、3年以上の勤続者は5名だが、令和6年の10月以降退職者はなく、定着率向上の兆しが見えてきている。

(3) 新人職員の育成

- ・法人内の通所事業所にて研修を実施し、他事業所の事業内容や利用者支援の基本方針、職員間のコミュニケーションについて学ぶ。
- ・事業所内の全作業に携わり、利用者や活動等の把握を行う。

【成果と課題】

年度内採用2名のうち、9月採用の職員は業務全般の把握や利用者との関係構築を概ね行うことができた。1月採用の職員についても、業務習得、関係性構築が順調に進んでいる。

(4) 職員の複数担当制による相互補完体制の強化

- ・月毎に担当以外の作業スケジュールを作成し、毎週進捗状況を確認する。

【成果と課題】

各職員が様々な作業に従事する取り組みは5年度から継続しており、相互補完体制が徐々に強化されてきた。7年度もスケジュールを作成し、概ね計画通り実施することができた。職員の急な休みや作業繁忙期への対応力が強化され、職員一人ひとりの自信に繋がっている。

(5) 職員間の連携強化

- ・共有事項等を正確に伝え、受けた側は明確な意思表示をする。
 - ・担当以外の利用者や活動等に目を向け、常に事業所全体の業務を把握し、職員同士で声掛け等をおこなう。
- ※周知のうえ、日常の現場でその都度指導、助言を行う。

【成果と課題】

2)、(4)に記載の相互補完体制や(6)に記載の目的意識の共有等の取り組みにより利用者支援や就労支援における職員間の連携は強化されている。ただし、建物の衛生保持や活動の準備などの業務については一部職員を除き、気が付かない職員も多く、その都度注意指導が必要な状態が続いている。

(6) 目的意識の共有

- ・施設長は業務の目的と意味、成果等を職員へ具体的に伝えるとともに、活発に意見交換を行える雰囲気づくりを行う。
 - ・職員は疑問点や課題点、良い点など自分の意見を積極的に会議等で発する。
- ※職員の意見や質問を受け止め、迅速に対応する(聴いたまま放置しない)。採用できない意見に対してはなぜ採用できないのかを明確に伝える。

【成果と課題】

前述のように職員間の意見交換は活発化しており、施設長からも支援現場や会議においてその都度、目的や意味を伝えるように取り組んだ。また意見に対しての組織的対応も明確化、迅速化している。ただし会議での発言は一部職員に限られることが多いため、施設長や議長から発言を促すようにしている。職員の主体的な動きが増え、業務の目的意識の共有は概ね図られていると感じている。

(7) 利用者支援スキルの向上

- ・ケース検討会議における利用者の情報共有の際、利用者の行動のみでなく、その背景や心情について考察を行う。またそれを踏まえた支援方針について協議する。

【成果と課題】

1)、(1) に記載のとおり。

4) 経営管理

(1) 訓練等給付費の安定確保

1日平均利用者40人(50人在籍利用率80%)を目標とし、利用者の安定通所を図る。

【成果と課題】

今年度新規利用者2名の受入れを行い、退所者は1名であった。今年度末現在の利用者数は49名、1日平均利用者数は40.4人(昨年度1日平均利用者数37.1名)となり、目標に達することができた。また、報酬ランクは前年度から1ランクアップし、15,000円以上のランクとなったほか、新たに福祉専門職員配置加算Ⅰを取得した。これらにより、訓練等給付費収入は昨年度比で約955万円増の8,200万円となった。

(2) 月次試算による経営状態の把握

毎月の月次試算の分析を丁寧に行い、予算執行を計画的に行う。

【成果と課題】

月次試算表をもとに毎月の経営状態を確認し、計画的な予算執行が行えた。

(3) コスト削減

節電節水節約に務めコストの削減を行う。

【成果と課題】

年度当初はパソコンの電源やエアコンの消し忘れが散見されていた。繰り返しの注意により改善が図られてきている。

8 事故報告 なし。

9 開所状況

1) 開所期間	自 令和7年4月1日	至 令和8年3月31日
2) 開所日数	(1) 週開所日数	5日間
	(2) 開所時間	午前9時～午後4時
	(3) 年間延開所日数	242日間(前年度 243日間)
	(4) 平均活動時間	7時間

10 利用状況

1) 利用者延人員	9,787人(前年度 9,023人)
2) 1日平均利用人員	40.4人(前年度 37.1人)
3) 体験実習者延人員	0人(前年度 44人)
4) 1日平均実習人員	0人(前年度 0.18人)
5) 実習者実人員	0人(前年度 17人)

11 利用者状況(令和8年3月31日現在)

1) 年齢	
20歳未満	2名
20歳以上30歳未満	16名
30歳以上40歳未満	8名
40歳以上50歳未満	11名
50歳以上60歳未満	11名
60歳以上70歳未満	1名
70歳以上	0名
2) 障害の状況	

愛の手帳	4 5 名	(内身障手帳 4 名、精神保健手帳 1 名)	
身体障害者手帳	5 名	(内愛の手帳 4 名)	
精神保健福祉手帳	3 名	(内愛の手帳 1 名)	
手帳不所持	1 名		
3) 通所手段			
送迎車利用	2 2 名	(内 2 名家族送迎、 4 名交通機関、 4 名徒歩等)	
交通機関利用	1 2 名	(内 4 名送迎、 1 名徒歩等)	
徒歩等	2 0 名	(内 4 名送迎、 1 名交通機関)	
家族送迎	6 名	(内 2 名送迎)	
4) 居住状況	管内居住	3 7 名	管外居住 1 2 名
5) 性別	男性	2 9 名	女性 2 0 名

1 2 生活支援 P G 実施状況

1) 実施日数	
(1) P G 実施日数	1 3 9 日
(2) 週平均実施日数	3 日
2) 利用者 (令和 8 年 3 月 3 1 日現在)	
(1) 利用者数	4 人
(2) 利用者延人数	3 6 0 人
3) 支援者 (令和 8 年 3 月 3 1 日現在)	
(1) 職員	2 人
(2) ボランタリースタッフ	9 人
(3) 職員延人数	3 人
(4) ボランタリースタッフ延人数	3 2 1 人
4) 内容	
(1) ウォーキング	1 3 9 回

1 3 余暇支援実施状況

1) 参加者	：	実 1 8 名	延べ 3 9 2 人	(前年度実績 実 1 4 名 延べ 3 0 1 人)
2) 延実施回数	：	9 6 回	(前年度実績 9 9 回)	

月別実施状況	実施月	実施回数	延参加人数
	4 月	8 回	2 6 人
	5 月	8 回	3 4 人
	6 月	8 回	3 6 人
	7 月	8 回	3 3 人
	8 月	8 回	3 2 人
	9 月	8 回	3 4 人
	1 0 月	8 回	3 4 人
	1 1 月	8 回	3 0 人
	1 2 月	8 回	3 7 人
	1 月	8 回	3 1 人
	2 月	8 回	2 6 人
	3 月	8 回	2 5 人
	合計	9 6 回	3 9 2 人

内容別実施及び参加状況	内容	実施回数	延参加人数
	ボウリング	3 6 回	1 8 9 人
	D V D 鑑賞	9 回	1 7 人
	ドライブ	1 2 回	5 3 人
	料理	7 回	4 5 人

テーブルゲーム	11回	46人
ヘアカット	12回	21人
さんぽ	8回	16人
すいか割り	1回	5人
合計	96回	392人

1.4 環境の整備

定期的に室内や建物周辺の清掃を実施し、年間を通して清潔な環境を保つことができた。

1.5 防災

災害時避難訓練（自衛消防訓練）および小平手をつなぐ親の会が主催する防災訓練と合わせて年3回実施した。